

石原広一郎 実業家。国家改造運動を推進、二二六事件で逮捕、敗戦後はA級戦犯、最後は四日市公害裁判被告人。

いしはらひろいちろう

帝国議会始・1890 = 京都市で、農業を営む石原長太郎の長男に生まれる。

Bushidou・・1899 = 9歳：

父の農業を手伝いながら育ち、

日露戦争始・1904 = 14歳：京都府立農学校に入学、

韓国反日暴動1907 = 17歳：卒業。京都府庁に入り、農林技手として勤務しながら、

アライ 創刊・1908 = 18歳：

韓国併合・・1910 = 20歳：高等文官試験をめざして、立命館大学法科専門部(夜間)に入学し、中川小十郎に師事、

大正政変・・1913 = 23歳：卒業すると、

民本主義・・1916 = 26歳：農林技手を辞職。南方で事業を展開する弟新三郎に請われ、マライ半島に渡航、

ロシア革命・1917 = 27歳：

ベトナム条約・1919 = 29歳：スリメダン鉱山を発見し、開発を進めるため、

大暴落・・・1920 = 30歳：シンガポールに(南洋鉱業公司)を設立、

原敬首相暗殺1921 = 31歳：

護憲三派圧勝1924 = 34歳：ケママンの鉱山開発と鉱石輸入船購入に際し、政府から低利子の融資を受けることに成功、

治安維持法・1925 = 35歳：(南洋鉱業公司)を(石原産業公司)とし、

円本時代始・1926 = 36歳：

海運業に進出、

世界恐慌・・1929 = 39歳：(石原産業海運合資会社)に改組。

満州事変・・1931 = 41歳：帰国。会社経営のかたわら、国家改造運動に乗り出し、マライで親しくなった"虎狩の殿様"徳川義親の紹介で大川周明に会見、

五一五事件・1932 = 42歳：資金提供をして(神武会)を創立し、パンフレット「国難に直面して」を発行するも、上層部の忌避で挫折、

国際連盟脱退1933 = 43歳：脱会せずに残った陸軍大将田中重光らと、(明倫会)を創立、機関誌(明倫)を発行、演説会を開催し聴衆を沸かせる一方、「国難打開策」を限定配布。皇道派の中心人物栗原安秀中尉と知り合い、大量の資金援助、

帝人疑獄事件1934 = 44歳：三重県に、銅・黄銅鉱を採掘する紀州鉱山を開設。京都では多額納税者として名士にもなる。(石原産業株式会社)を設立し社長となるとともに、最初のまとまった著作「新日本建設」を大量に印刷し配布、

芥川直木賞始1935 = 45歳：日蘭海運会商の場で、日本語を公用語にすることを主張することで、決裂に持ち込み、国策会社南洋海運株式会社を主導しようとするも、結局孤立。

二二六事件・1936 = 46歳：栗原安秀が二二六事件を起こすに至り、徳川義親と、反乱士官に自決を勧めるなどの收拾工作をするものの、首謀者の一人として逮捕され、陸軍刑務所に収監され、それまでの活動が水泡に帰すが、

日中戦争始・1937 = 47歳：意外にも無罪判決になって、活動を再開、鉱山の成功もあって大発展、

健保+総動員 1938 = 48歳：社会的注目を浴びようになり、近衛内閣改造に当たって、入閣を約束されるも、事変不拡大派であったことから、軍部の反対で実現せず。他方、徳川義親らと排英主義団体(大和倶楽部)を結成。

第二次大戦始1939 = 49歳：海軍から独占的開発の保証を得て、海南島田独鉱山を開発。四日市の銅精錬工場建設に着手。(集中的に南進論などの論説を執筆、「熱血児石原広太郎」という伝記まで刊行される。

大政翼賛会・1940 = 50歳：まず硫酸工場が完成、一大コンツェルンを形するに至るが、軍部・政府批判がさらに鮮明になり、徳川義親らと(東亜建設国民連盟)の結成に関与するも解散して、孤立化するなか、「転換日本の針路」を出版、

日米開戦・・1941 = 51歳：南進国策の先駆者として有名になり、全国ラジオ放送にまで登場するも、(明倫会)も解散となり、大政翼賛会への協力を断って、最後の政治的可能性を失うものの、日米開戦が今まで以上に"時の人"にし、

・・・・・1942 = 52歳：(京都日出新聞)で連載し、(東京朝日新聞)の座談会に出席し、「南日本の建設」を刊行するも、東条英機から狙われていることを察知、密かに内閣打倒を画策する一方、

創価学会検挙1943 = 53歳：海運業を日本海運に譲渡。(最後の審判ともいえる意見書「今日ノ世界戦ト我が戦備」を公開、

年金+総武装 1944 = 54歳：財団法人立命館の理事長になる。(東久邇宮を通じて政治的日程に登るも間に合わず、

敗戦・・・・1945 = 55歳：敗戦で、海外事業の全てを失うとともに、A級戦犯となり、巣鴨拘置所に収容されるが、

新憲法公布・1946 = 56歳：公職追放にもなるが、

極東裁判決・1948 = 58歳：戦犯は不起訴となり釈放、

独立回復・・1951 = 61歳：公職追放処分も解除されて、(石原産業)会長に復帰。

戦前の行動を反省し、戦没者らの冥福を祈りながら、全国各地を巡歴。

テレビ放送始・1953 = 63歳：

自衛隊発足・1954 = 64歳：酸化チタン工場を完成するが、

国連加盟・・1956 = 66歳：自著「創業三十五年を回顧して」、

安保闘争・・1960 = 70歳：

タイタイ病始・1961 = 71歳：ワンマン経営に反対するストライキが起き、組合に味方したとして、取締役総務部長の息子まで更迭、

全国総合計画1962 = 72歳：

強酸性溶液を垂れ流して、

いざなぎ景気1966 = 76歳：石油コンビナートなど他社とともに、四日市公害裁判が起こされ、

大阪万博・・1970 = 80歳：その渦中に、没した。

昭和裏面史についての詳細な記録を遺し、「石原廣一郎関係文書(上下巻)」が刊行されている。

「没年日本史人物事典」、インターネット赤沢史朗「石原広太郎小論」ほか、